

平成28年度の調査状況を報告します

下岡田遺跡第10次発掘調査

☎ 社会教育課学習文化推進係 ☎ 286 - 3272

町は、国の史跡指定を目指し、平成28年度から下岡田遺跡の調査事業（第10次発掘調査）を始めました。調査に当たっては、調査指導委員会を設け、学識経験者（考古学・歴史学・地理学）から、指導・助言を受けています。新たな発掘調査とこれまでの調査で得た資料の再検討を進め、平成30年度末に調査報告書を刊行する予定です。

【平成28年度調査について】

調査時期 10月3日～10月21日(第10-1次)

1月23日～2月22日(第10-2次)

調査場所 遺跡の中心施設である礎石建物跡(SB002)の南側

調査では、SB002の礎石を据えた基盤面（周囲より1段高くした面）の南端部を確認し、この建物の規模が3間×6間（約11m×18m）であったことが確定しました。また、新たに柱穴を検出し、2間×1間以上の掘立柱建物跡1棟を確認しました。

このほか、「牛の骨」を埋めた土坑が2基見つけられました。頭部と足部を別々の土坑に埋納しており、何らかの意図を持って埋められたものと考えられます。

出土した骨は、時期を明らかにするため、放射性炭素年代測定を実施しています。

出土遺物には、多数の瓦・須恵器・土師器・土師質土器・陶磁器などがあります。

建物を囲む築地塀



第10-1次調査区全景

や柵などの施設の痕跡は見つけることができませんでしたが、調査地点は駅館院（駅家の中心部分）の一部と考えられ、貴重な資料を得ることができました。

平成29年度も発掘調査を行うとともに、町歴史民俗資料館（一部の遺物は広島大学）に保管している大量の遺物の分析を行って遺跡の性格を明らかにしていきます。今後の展開に期待してください。



牛の骨出土状況

【下岡田遺跡について】

下岡田遺跡は、昭和32年、城ヶ丘団地造成に係る道路工事の際に古瓦が出土し、所在が確認されました。昭和38年からこれまで9回の発掘調査を行い、遺跡の範囲が広範囲に及んでいることが知られています。発掘調査では、礎石建物跡(礎石の上に柱を立てた建物)、掘立柱建物(柱穴に直接柱を立てた建物)、井戸などの遺構が検出され、重圏文軒丸瓦・重廓文軒平瓦をはじめとする大量の土器類などが出土しています。これらの遺構や遺物から、本遺跡は8世紀後半～9世紀にかけての地方官衙跡(古代山陽道に置かれた安芸駅家跡)を中心とした遺跡であると考えられています。



下岡田遺跡第10次調査報告会を行います

～古代山陽道の安芸駅家跡とされる下岡田遺跡の最新情報～

日時 4月22日(土) 午前10時30分～正午

場所 くすのきプラザ 2階 研修室

※駐車場に限りがあります。できるだけ公共交通機関等でお越しください。

内容 これまでの下岡田遺跡の発掘調査および平成28年度に実施した第10次発掘調査について説明します。

※申し込み不要、参加無料。